※令和４年度以降入学生用

学校番号	３００７

令和６年度　工業科（ファッション工学科）

教科	工業	科目	デザイン基礎	単位数	２単位	年次	１年次
使用教科書							
副教材等	デザイン実践　（実教出版）						

1　担当者からのメッセージ（学習方法等）

２班編成にて授業を行います。ファッションデザイン画の基本技法を学習する分野、ベクタ系のソフトの基本的操作を学習する分野に分かれ隔週で実技の授業を行います。
デザインするための発想力、表現力を養い、ファッション以外の社会や生活と結び付けた新たな技術を身に付けましょう。また創造的かつ計画的にデザインする態度を身につけ、コンクール等に応募し、社会との関わりや必要性について理解することを目標とします。

2　学習の到達目標

・ファッションデザイン画のボディーや衣服の影、着色方法の基本的知識や技術を身に付ける。またファッションデザインにおけるデザイン発想方法の思考し、判断する力をめざす。
・ベクタ系のソフトの基本操作を理解し、ソフトの特徴を活かしたデザイン制作を行う。
・積極的にコンクールへ応募し、実践力の育成を促すと共に主体的に取り組む態度を養う。

3　評価の観点及びその趣旨

観点	a:知識・技術	b:思考・判断・表現	c:主体的に学習に取り組む態度
観点の趣旨	デザインに関する基礎的・基本的な知識を身に付け、活用し、現代社会における工業の意義や役割を理解している。	デザインに関する諸課題の改善・向上をめざして思考を深め、ものづくりを合理的に計画し、その技術を適切に活用している。	デザインに関する課題について関心をもち、主体的に取り組もうとするとともに、実践的な態度を身に付けている。

上に示す観点に基づいて、学習のまとまりごとに評価し、学年末に５段階の評定にまとめます。学習内容に応じて、それぞれの観点を適切に配分し、評価します。

※令和４年度以降入学生用

４　学習の活動

学期	単元名	学習内容	単元(題材)の評価規準	評価方法		
				知(a)	思(b)	主(c)
通年(デザイン画とPCの隔週)	顔	・ 顔のバランスについて ・ 顔の各パーツの練習 ・ 顔の表情の表現構成 ・ 顔の着色表現(メイク)	a: 顔のバランスについて理解し、自らが意図した表情をつくることができる。 b: 表情をつくるために試行をおこなうことができる。また単一でなく様々な表現にチャレンジし描くことができている。 c: 着色に関して細部まで丁寧に作業することができ、主体的に新たなアイデアを表現することができる。	学習状況の観察 作品制作	学習状況の観察 作品制作 作品コンセプト	学習状況の観察 作品制作 作品コンセプト
	着色	・ 影の理解 ・ ポスターカラーによる着色 ・ 色鉛筆による着色	a: デザイン画の影について理解した着色を行っている。ポスターカラー、色鉛筆の表現について理解している。 b: 影の表現を観察し、表現しようとしている。 c: 主体的に着色し、細部まで丁寧に表現をしようとしている。	学習状況の観察 作品制作	学習状況の観察 作品制作	学習状況の観察 作品制作
	模写	・ ボディーのバランスの理解 ・ シルエットの観察(S) ・ ディティールの観察(D) ・ マテリアルの表現(M)	a: ボディーのバランスについて理解、表現ができている。S、D、Mの理解、表現ができている。 b: 細部までD、M観察し、表現しようとしている。 c: 主体的に着色し、M を細部まで丁寧に表現をしようとしている。	学習状況の観察 作品制作	学習状況の観察 作品制作	学習状況の観察 作品制作
	デザイン発想	・ シルエットの表現 ・ ディティールへの変換 ・ ポスターカラーによる着色 ・ 色鉛筆による着色	a: ボディーのバランスについて理解、表現ができている。S、D、Mの理解し、表現ができている。 b: 細部までD、M観察し、表現しようとしている。D への変換をしっかり観察している。 c: 主体的に着色し、細部まで丁寧に表現し、多彩な表現をしようとしている。	学習状況の観察 作品制作	学習状況の観察 作品制作	学習状況の観察 作品制作

※　表中の観点について　a:知識・技能　b:思考・判断・表現　c:主体的に学習に取り組む態度